

## 平成 31 年度 鹿児島大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

理・工・医・歯・農・水産・共同獣医・教育学部

平成 31 年 2 月 25 日

- 理 [数理・物理・地環]・工・医 [医]・歯学部は, [1], [2] 必答, [3] ~ [5] から 1 問選択, [6], [7] 必答. 数 I・II・III・A・B(120 分)
- 理 [生命化]・農・水産・共同獣医学部は, [1], [2] 必答, [3] ~ [5] から 1 問選択. 数 I・II・A・B(90 分)
- 教育 [数学・理科・技術・教育・心理・家政・国語・社会・英語・特別支援教育・健康教育] 学部は, [1] 必答, [3] ~ [5] から 1 問選択, [2], [8] の 2 題から 1 問選択. 数 I・II・A・B または 数 I・III・A・B(90 分)

1 次の各問いに答えよ.

- (1) 平面上で 2 点  $A(3, 1)$ ,  $B(1, 4)$  から等距離にある点全体のなす直線  $l$  の方程式を求めよ. さらに, 点  $P(2, 2)$  は, 直線  $l$  が分ける 2 つの領域のうち, 点  $A$  のある領域, 点  $B$  のある領域どちらに属するかを調べよ.
- (2) 有限集合  $X$  の要素の個数を  $n(X)$  で表すことにする. 全体集合  $U$  は有限集合で  $n(U) = 100$  とし,  $A, B$  は  $U$  の部分集合で  $n(A) = 30$ ,  $n(B) = 80$  とする.  $n(A \cap B)$  のとり得る値の最大値および最小値を求めよ.
- (3) 方程式  $5x + 8y = 139$  を満たす正の整数の組  $(x, y)$  をすべて求めよ.

2 実数  $\alpha, \beta$  に対して, 整式

$$f(x) = x^4 + 2\alpha x^3 + (\alpha^2 - \beta^2 + 2)x^2 + 2\alpha x + 1$$

を考える.

- (1)  $y = x + \frac{1}{x}$  とおく. このとき  $\frac{1}{x^2}f(x)$  を  $y$  の整式で表せ.
- (2)  $(\alpha, \beta) = \left(\frac{1}{2}, \frac{3}{2}\right)$  のとき, 方程式  $f(x) = 0$  の解をすべて求めよ.
- (3) 方程式  $f(x) = 0$  がちょうど 1 つの解をもつような  $(\alpha, \beta)$  をすべて求めよ.

3 実数  $p$  に対して、数列  $\{a_n\}$  は

$$a_1 = 1, \quad a_{n+1} = pa_n + 3n^2 + 3n \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots (*)$$

を満たす.

- (1)  $p = 1$  のとき、 $\{a_n\}$  の一般項を求めよ.
- (2)  $p$  が 1 でないとき、漸化式 (\*) は実数  $\alpha, \beta, \gamma$  を用いて

$$a_{n+1} + \alpha(n+1)^2 + \beta(n+1) + \gamma = p(a_n + \alpha n^2 + \beta n + \gamma)$$

とかき表せる.  $\alpha, \beta, \gamma$  を  $p$  を用いて表せ.

- (3)  $p = 2$  のとき、 $\{a_n\}$  の一般項を求めよ.

4  $xyz$  空間上に、点  $A(1, 0, 0)$ , 点  $B(-1, b, b)$ , 球  $S: x^2 + (y-1)^2 + z^2 = 1$  がある. ただし、 $b$  は実数とする. 原点を  $O$  とする.

- (1) 直線  $AB$  上の点  $P$  を、実数  $t$  を用いて  $\overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{AB}$  と表すとき、点  $P$  の座標を  $b, t$  を用いて表せ.
- (2) 直線  $AB$  が球  $S$  と共有点をもつような  $b$  の値の範囲を求めよ.
- (3) 球  $S$  の中心を  $C$  とする.  $b$  が (2) の値の範囲を動くとき、三角形  $ABC$  の面積  $T$  の最大値と最小値を求めよ.

5 1 から 10 までの数字が 1 つずつ書かれた 10 枚のカードがある. この中から 1 枚のカードを無作為に取り出し、書かれた数を記録してもとに戻す. この試行を  $n$  回行い、 $i$  回目に取り出したカードに書かれた数を  $X_i$  とする. さらに、それらの  $n$  個の数  $X_1, X_2, \dots, X_n$  を小さい順に並べかえたものを  $X_{(1)} \leq X_{(2)} \leq \dots \leq X_{(n)}$  とする.

- (1) 確率  $P(X_{(n)} \leq 8)$  を求めよ.
- (2) 確率  $P(X_{(n)} = 8)$  を求めよ.
- (3)  $n$  を 2 以上とするとき、 $X_{(2)}$  が 6 以上となる確率が  $\frac{1}{2}$  未満となる最小の試行回数  $n$  を求めよ.

6 0でない複素数  $z$  に対して,  $w = x + yi$  を  $w = z^2 + \frac{\bar{z}}{z}$  とする. ただし,  $x$  と  $y$  は実数,  $i$  は虚数単位とし,  $\bar{z}$  は  $z$  と共役な複素数とする.

- (1) 0でない複素数  $z$  について,  $z$  の絶対値を  $r$ , 偏角を  $\theta$  とするとき,  $z$ ,  $\frac{1}{z}$ ,  $\bar{z}$  を, それぞれ  $r$ ,  $\theta$  を用いて極形式で表せ.
- (2) 複素数平面上で点  $z$  が原点を中心とする半径1の円の周上を動くとき, 点  $w$  が描く図形を求めよ.
- (3)  $r > 1$  とする. 複素数平面上で点  $z$  が原点を中心とする半径  $r$  の円の周上を動くとき, 点  $w$  が描く曲線  $C$  の方程式を  $x$ ,  $y$  を用いて表せ.
- (4)  $r > 1$  とする. (3) の曲線  $C$  で囲まれた部分の面積を  $r$  を用いて表せ.

7 関数  $f(x) = \log(1+x)$  ( $x \geq 0$ ) を考える.  $xy$  平面上の  $y = f(x)$  のグラフを  $y$  軸のまわりで一回転させてできる形の容器がある. はじめ空である容器に, 時刻  $t$  における水の量が  $vt$  になるように, 単位時間あたり  $v$  の一定の割合で水を静かに注ぐ. ただし,  $v$  は正の定数とし, 容器は回転軸 ( $y$  軸) が水平面に垂直で,  $y$  軸の正の側を上向きにして固定されている.

- (1)  $xy$  平面上で  $y = f(x)$  の増減と凹凸を調べてグラフをかけ.
- (2) 水面の高さが  $h$  になったときの, 容器内の水の量  $V$  を  $h$  を用いて表せ.
- (3) 水面の高さが  $h = \log 2$  になったときの, 水面の高さの変化率  $\frac{dh}{dt}$  を求めよ.

8 曲線  $y = e^x$  の接線で, 原点を通るものを  $l$  とする.

- (1) 接線  $l$  の方程式を求めよ.
- (2) 曲線  $y = e^x$ , 接線  $l$  および直線  $y = x + 1$  で囲まれた部分の面積を求めよ.

## 正解

- 1 (1) 平面上の点を  $X(x, y)$  とする.  $A(3, 1)$ ,  $B(1, 4)$  より

$$\begin{aligned} BX^2 - AX^2 &= \{(x-1)^2 + (y-4)^2\} - \{(x-3)^2 + (y-1)^2\} \\ &= 4x - 6y + 7 \quad \cdots (*) \end{aligned}$$

$l$  は  $AX = BX$  を満たす点  $X$  の軌跡の方程式であるから

$$l : 4x - 6y + 7 = 0$$

(\*) により  $BP^2 - AP^2 = 4 \cdot 2 - 6 \cdot 2 + 7 = 3 > 0$  ゆえに  $BP > AP$  によって, 点  $P$  は点  $A$  のある領域に属する.

別解  $AP = \sqrt{2}$ ,  $BP = \sqrt{5}$  より  $AP < BP$  によって, 点  $P$  は点  $A$  のある領域に属する.

- (2)  $n(A \cap B) = x$  とおくと, 右の表から

$$\begin{cases} x \geq 0 \\ 30 - x \geq 0 \\ 80 - x \geq 0 \\ x - 10 \geq 0 \end{cases}$$

	$B$	$\overline{B}$	合計
$A$	$x$	$30 - x$	30
$\overline{A}$	$80 - x$	$x - 10$	70
合計	80	20	100

これを解いて  $10 \leq x \leq 30$  によって  $10 \leq n(A \cap B) \leq 30$

- (3)  $5x + 8y = 139 \cdots (*)$  より,  $5 \equiv 0$ ,  $8 \equiv 3$ ,  $139 \equiv 4 \pmod{5}$  であるから

$$3y \equiv 4 \quad \text{ゆえに} \quad 2 \cdot 3y \equiv 2 \cdot 4 \quad \text{すなわち} \quad y \equiv 3 \pmod{5}$$

$y = 3 + 5k$  ( $k$  は整数)  $\cdots$  ① を (\*) に代入すると

$$5x + 8(3 + 5k) = 139 \quad \text{ゆえに} \quad x = 23 - 8k \quad \cdots$$
 ②

$x, y$  は正の整数であるから, ①, ②より

$$\begin{cases} 23 - 8k > 0 \\ 3 + 5k > 0 \end{cases} \quad \text{これを満たす整数 } k \text{ は } k = 0, 1, 2$$

よって  $(x, y) = (23, 3), (15, 8), (7, 13)$

2 (1)  $f(x) = x^4 + 2\alpha x^3 + (\alpha^2 - \beta^2 + 2)x^2 + 2\alpha x + 1$  より

$$\begin{aligned}\frac{1}{x^2}f(x) &= x^2 + 2 + \frac{1}{x^2} + 2\alpha\left(x + \frac{1}{x}\right) + \alpha^2 - \beta^2 \\ &= \left(x + \frac{1}{x}\right)^2 + 2\alpha\left(x + \frac{1}{x}\right) + \alpha^2 - \beta^2 \\ &= \mathbf{y^2 + 2\alpha y + \alpha^2 - \beta^2}\end{aligned}$$

(2) (1)の結果から  $\frac{1}{x^2}f(x) = (y + \alpha + \beta)(y + \alpha - \beta) \dots (*)$

これに  $(\alpha, \beta) = \left(\frac{1}{2}, \frac{3}{2}\right)$  を代入すると

$$\frac{1}{x^2}f(x) = (y + 2)(y - 1) = \left(x + \frac{1}{x} + 2\right)\left(x + \frac{1}{x} - 1\right)$$

$$\begin{aligned}\text{したがって } f(x) &= (x^2 + 2x + 1)(x^2 - x + 1) \\ &= (x + 1)^2(x^2 - x + 1)\end{aligned}$$

よって、方程式  $f(x) = 0$  の解は  $x = -1$  (2重解),  $\frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2}$

(3)  $f(x) = 0$  のとき, (\*) より

$$y = -\alpha \pm \beta \quad \text{すなわち} \quad x + \frac{1}{x} = -\alpha \pm \beta \quad \dots (**)$$

ここで、 $x + \frac{1}{x} = k$  とおくと ( $k$  は定数)  $x^2 - kx + 1 = 0 \quad \dots \textcircled{1}$

$\textcircled{1}$  が重解をもつとき、係数について

$$(-k)^2 - 4 \cdot 1 = 0 \quad \text{これを解いて} \quad k = \pm 2, \quad \text{重解} \quad \frac{k}{2}$$

$k = 2$  (重解 1) のとき, (\*\*) より

$$-\alpha + \beta = -\alpha - \beta = 2 \quad \text{ゆえに} \quad (\alpha, \beta) = (-2, 0)$$

$k = -2$  (重解 -1) のとき, (\*\*) より

$$-\alpha + \beta = -\alpha - \beta = -2 \quad \text{ゆえに} \quad (\alpha, \beta) = (2, 0)$$

よって、 $f(x) = 0$  がちょうど 1 つの解をもつとき  $(\alpha, \beta) = (\pm 2, 0)$

3 (1)  $p = 1$  より,  $a_1 = 1$ ,  $a_{n+1} - a_n = 3n^2 + 3n$  であるから,  $n \geq 2$  のとき

$$\begin{aligned} a_n &= a_1 + \sum_{k=1}^{n-1} (a_{k+1} - a_k) = 1 + \sum_{k=1}^{n-1} (3k^2 + 3k) \\ &= 1 + 3 \cdot \frac{1}{6} n(n-1)(2n-1) + 3 \cdot \frac{1}{2} n(n-1) \\ &= n^3 - n + 1 \end{aligned}$$

上式は,  $n = 1$  のときも成立するから  $a_n = n^3 - n + 1$

別解  $a_{n+1} - a_n = 3n(n+1) = \{(n+2) - (n-1)\}n(n+1)$  より

$$\begin{aligned} a_{n+1} - a_n &= n(n+1)(n+2) - (n-1)n(n+1) \\ a_{n+1} - n(n+1)(n+2) &= a_n - (n-1)n(n+1) \end{aligned}$$

したがって  $a_n - (n-1)n(n+1) = a_1 - (1-1) \cdot 1 \cdot (1+1)$

よって  $a_n = n^3 - n + 1$

(2) (\*) より  $a_{n+1} - pa_n = 3n^2 + 3n \quad \dots \textcircled{1}$

与えられた漸化式

$$a_{n+1} + \alpha(n+1)^2 + \beta(n+1) + \gamma = p(a_n + \alpha n^2 + \beta n + \gamma) \quad \dots (**)$$

を変形すると

$$\begin{aligned} a_{n+1} - pa_n &= (p-1)\alpha n^2 + \{(p-1)\beta - 2\alpha\}n \\ &\quad + \{(p-1)\gamma - \alpha - \beta\} \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

①, ② の右辺の同じ次数の項の係数を比較して

$$(p-1)\alpha = 3, \quad (p-1)\beta - 2\alpha = 3, \quad (p-1)\gamma - \alpha - \beta = 0$$

$$p \neq 1 \text{ に注意して } \alpha = \frac{3}{p-1}, \quad \beta = \frac{3(p+1)}{(p-1)^2}, \quad \gamma = \frac{6p}{(p-1)^3}$$

(3) (2) の結果に  $p = 2$  を代入すると  $\alpha = 3, \beta = 9, \gamma = 12$

$b_n = a_n + 3n^2 + 9n + 12$  とおくと  $b_1 = 25$  (\*\*\*) より  $b_{n+1} = 2b_n$

$\{b_n\}$  は初項 25, 公比 2 の等比数列であるから  $b_n = 25 \cdot 2^{n-1}$

したがって  $a_n + 3n^2 + 9n + 12 = 25 \cdot 2^{n-1}$

よって  $a_n = 25 \cdot 2^{n-1} - 3n^2 - 9n - 12$

- 4 (1) 原点  $O$ ,  $A(1, 0, 0)$ ,  $B(-1, b, b)$  より,  $\overrightarrow{AB} = (-2, b, b)$  であるから

$$\overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{AB} = (1, 0, 0) + t(-2, b, b) = (1 - 2t, bt, bt)$$

よって  $P(1 - 2t, bt, bt)$

- (2) (1) で求めた点  $P$  の座標を球  $S: x^2 + (y - 1)^2 + z^2 = 1$  に代入すると

$$(1 - 2t)^2 + (bt - 1)^2 + (bt)^2 = 1$$

$$2(b^2 + 2)t^2 - 2(b + 2)t + 1 = 0$$

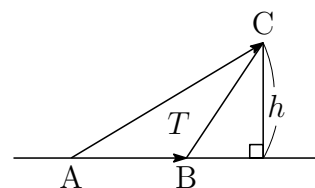
このとき,  $t$  に関する 2 次方程式が実数解をもつから, 判別式  $D$  について

$$D/4 = (b + 2)^2 - 2(b^2 + 2) \cdot 1 = -b^2 + 4b \geq 0$$

したがって  $b(b - 4) \leq 0$  これを解いて  $0 \leq b \leq 4$

別解  $\overrightarrow{AB} = (-2, b, b)$ ,  $\overrightarrow{AC} = (-1, 1, 0)$  より,  
 $\triangle ABC$  の面積  $T$  は

$$\begin{aligned} T &= \frac{1}{2} \sqrt{|\overrightarrow{AB}|^2 |\overrightarrow{AC}|^2 - (\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC})^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{(2b^2 + 4) \cdot 2 - (2 + b)^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{3b^2 - 4b + 4} \quad \dots (*) \end{aligned}$$



$C$  から直線  $AB$  に下ろした垂線の長さを  $h$  とすると

$$\frac{1}{2} |\overrightarrow{AB}| h = T \quad \text{ゆえに} \quad h = \frac{2T}{|\overrightarrow{AB}|} = \frac{\sqrt{3b^2 - 4b + 4}}{\sqrt{2b^2 + 4}}$$

このとき,  $h \leq 1$  であるから  $\sqrt{\frac{3b^2 - 4b + 4}{2b^2 + 4}} \leq 1$

したがって  $3b^2 - 4b + 4 \leq 2b^2 + 4$  これを解いて  $0 \leq b \leq 4$

- (3)  $3b^2 - 4b + 4 = 3\left(b - \frac{2}{3}\right)^2 + \frac{8}{3}$  であるから, (\*) および (2) の結果より,

$T$  は,  $b = 4$  のとき最大値  $3$ ,  $b = \frac{2}{3}$  のとき最小値  $\frac{\sqrt{6}}{3}$  をとる.

- 5 (1)  $P(X_{(n)} \leq 8)$  は  $n$  回とも 8 以下の数字のカードを取り出す確率であるから

$$P(X_{(n)} \leq 8) = \left(\frac{8}{10}\right)^n = \left(\frac{4}{5}\right)^n$$

- (2)  $n$  回とも 7 以下の数字のカードを取り出す確率は

$$P(X_{(n)} \leq 7) = \left(\frac{7}{10}\right)^n$$

これと (1) の結果から、求める確率は

$$\begin{aligned} P(X_{(n)} = 8) &= P(X_{(n)} \leq 8) - P(X_{(n)} \leq 7) \\ &= \left(\frac{8}{10}\right)^n - \left(\frac{7}{10}\right)^n = \frac{8^n - 7^n}{10^n} \end{aligned}$$

- (3)  $X_{(2)}$  が 6 以上となるのは、 $n$  回の試行で、5 以下のカードを取り出す回数が 1 回以下の場合で、その確率は

$${}_nC_1 \left(\frac{1}{2}\right)^n + \left(\frac{1}{2}\right)^n = \frac{n+1}{2^n}$$

この確率が  $\frac{1}{2}$  未満となるとき

$$\frac{n+1}{2^n} < \frac{1}{2} \quad \text{ゆえに} \quad 2^{n-1} - n - 1 > 0$$

$f(n) = 2^{n-1} - n - 1$  とおくと、 $f(n) > 0$  をみたす最小の整数  $n$  ( $n \geq 2$ ) を求めればよい。

$$f(2) = -1, \quad f(3) = 0, \quad f(4) = 3 > 0 \quad \text{よって} \quad n = 4$$



**6** (1)  $z = r(\cos \theta + i \sin \theta),$

$$\frac{1}{z} = \frac{1}{r(\cos \theta + i \sin \theta)} = \frac{1}{r} \{\cos(-\theta) + i \sin(-\theta)\},$$

$$\bar{z} = r(\cos \theta - i \sin \theta) = r\{\cos(-\theta) + i \sin(-\theta)\}$$

(2) (1) の結果により

$$\begin{aligned} w &= z^2 + \frac{\bar{z}}{z} = r^2(\cos \theta + i \sin \theta)^2 + \{\cos(-\theta) + i \sin(-\theta)\}^2 \\ &= r^2(\cos 2\theta + i \sin 2\theta) + \cos(-2\theta) + i \sin(-2\theta) \\ &= (r^2 + 1) \cos 2\theta + (r^2 - 1)i \sin 2\theta \quad \cdots (*) \end{aligned}$$

$z$  が原点を中心とする半径 1 の円の周上を動くから、 $r = 1$  より

$$w = 2 \cos 2\theta \quad \text{ゆえに} \quad -2 \leq w \leq 2$$

よって、点  $w$  は 2 点  $2, -2$  を両端とする線分を描く.

(3) (\*) より  $x = (r^2 + 1) \cos 2\theta, \quad y = (r^2 - 1) \sin 2\theta$

$$r > 1 \text{ に注意して } \cos 2\theta = \frac{x}{r^2 + 1}, \quad \sin 2\theta = \frac{y}{r^2 - 1}$$

$$\text{したがって } C: \frac{x^2}{(r^2 + 1)^2} + \frac{y^2}{(r^2 - 1)^2} = 1$$

(4) (3) の結果より、 $C$  は原点を中心とする長軸の長さ  $2(r^2 + 1)$ 、短軸の長さ  $2(r^2 - 1)$  の楕円であるから、その面積は

$$\pi(r^2 + 1)(r^2 - 1) = \pi(r^4 - 1)$$

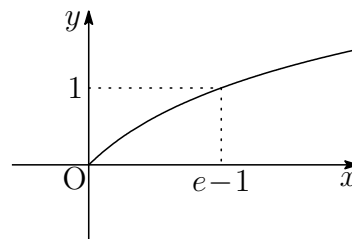
7 (1)  $f(x) = \log(1+x)$  ( $x \geq 0$ ) より,

$x > 0$  において

$$f'(x) = \frac{1}{1+x} > 0,$$

$$f''(x) = -\frac{1}{(1+x)^2} < 0$$

$x$	0	...
$f'(x)$		+
$f''(x)$		-
$f(x)$	0	↗



(2)  $y = \log(1+x)$  より,  $x = e^y - 1$  であるから

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_0^h x^2 dy = \pi \int_0^h (e^y - 1)^2 dy \quad \dots (*) \\ &= \pi \int_0^h (e^{2y} - 2e^y + 1) dy \\ &= \pi \left[ \frac{e^{2y}}{2} - 2e^y + y \right]_0^h = \pi \left( \frac{e^{2h}}{2} - 2e^h + h + \frac{3}{2} \right) \end{aligned}$$

(3)  $V = vt$  より  $\frac{dV}{dt} = v$ , (\*) より  $\frac{dV}{dh} = \pi(e^h - 1)^2$ ,

これらを  $\frac{dV}{dt} = \frac{dV}{dh} \cdot \frac{dh}{dt}$  に代入すると  $v = \pi(e^h - 1)^2 \frac{dh}{dt} \quad \dots (**)$

$h = \log 2$  のとき,  $e^h = 2$  を (\*\* ) に代入すると

$$v = \pi(2-1)^2 \frac{dh}{dt} \quad \text{よって} \quad \frac{dh}{dt} = \frac{v}{\pi}$$

8 (1)  $y = e^x$  より  $y' = e^x$

曲線  $y = e^x$  上の点  $(t, e^t)$  における接線の方程式は

$$y - e^t = e^t(x - t) \quad \text{ゆえに} \quad y = e^t(x - t + 1) \quad \dots (*)$$

これが原点を通るとき  $0 = e^t(-t + 1)$  ゆえに  $t = 1$

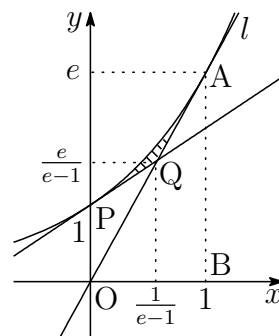
$t = 1$  を (\*) に代入することにより,  $l$  の方程式は  $y = ex$

(2) (1) で求めた接点を  $A(1, e)$  とし,  $B(1, 0)$  とおく.  
直線  $y = x + 1$  は, (\*) により, 点  $(0, 1)$  における接線で, その接点を  $P$  とする.

$l: y = ex$  と直線  $y = x + 1$  の交点を  $Q$  とすると

$$Q\left(\frac{1}{e-1}, \frac{e}{e-1}\right)$$

求める面積は右の図の斜線部分で, その面積を  $S$  とすると



$$\begin{aligned} S &= \int_0^1 e^x dx - \triangle OAB - \triangle OPQ \\ &= \left[ e^x \right]_0^1 - \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot e - \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \frac{1}{e-1} \\ &= \frac{e}{2} - \frac{1}{2(e-1)} - 1 \end{aligned}$$